

ぐるっと首都圏

激闘で得た不屈の信条

甲子園初出場エース 鎮目英俊さん =1985年度卒



子園初出場を決めた茨城大会決勝は、甲子園でプレーしたことよりも、鮮烈な記憶として残っています。

激動の一戦でした。エースとして先発マウンドを踏み、三回途中6失点で降板しました。母校の応援団が陣取る三塁側スタンドを構

いついてくれました。グラウンドの仲間と応援スタンド、みんなの思いが一つになり、何かが動いたとしか思えなかつた。それがチーム一丸で戦うということだったのです。

しづめ・ひでとし
1967年、茨城県ひたちなか市(旧勝田市)生まれ。
小学生時代はリトルリーグで大久保博元さん(元プロ野球楽天監督)とバッテリーを組んだ。1990

高校球院の次男を応援しようと、この夏、高校野球茨城大会の開会式をスタンドで見守りました。今年は100回記念のため、歴代甲子園出場校の校旗が入場するシーンがあり、日立二高の校旗を目にして感慨深いものがありました。

夏の高校野球シーズンになると、33年前を思い出します。土浦三高を被り、甲

目に左翼手の守備に就きましたが、「取り返しのつかないことをしてしまった」と後悔の念でいっぱいでした。野球を通じてそんなことを思ったのは、後にも先にも初めてでした。

しかし、チームメートが窮地から救ってくれました。七回に2死無走者から6連打で5点を奪い1点差で自ら、八回こは同点で

年、日大文理学部を卒業。小学校教諭を経て、ひたちなか市や水戸市の中学
校で15年間、野球部顧問を務める。4月から水戸市教育委員会学校管理課
長を務める。

「母校をたずねる」は今月から、茨城県立日立一高（日立市若葉町）編をお届けします。昨年創立90周年を迎えた「自立・自立」の校風で知られる県内有数の進学校です。初回は1985年に同高を夏の甲子園初出場に導いた立役者、鎮田英俊さん（51）＝85年度卒＝が、高校最後の夏の思い出を振り返ります。

佐藤則夫

ヨナラ勝ちしました。普段
は打球を遠くに飛ばすこと
しか考えてハませんでした

古豪健在 伝統の野球部



甲子園初出場を決め喜ぶ日立一ナイ
1985年7月27日撮影

しました。「狙っていたんだろ」と冷やかされましたが、打席ではそんな余裕はありませんでした。

父の影響で小学2年から野球を始め、プロ野球選手を夢見ていました。小学時代はリトルリーグで関東大会準優勝、中学校の軟式野球部で県大会優勝と関東大会ベスト4を経験しました。自宅から通学ができ、普通科で学べて甲子園を狙える。そんな高校を考え、日立一高に進学しました。常総学院などの私立校が主流になった今と違い、当時は県立の伝統校が強かったのです。

今と変わらず広くないグ

ラウンドをサッカー部やラグビー部と兼用して練習していました。外野ノックをしているとサッカーボールが転がってくることもあります。とにかく限られた時間で基本練習を繰り返しました。高校最後の夏、チーム一丸で戦う野球を身にしみて実感したからこそ、教師になつて野球の指導者

を目指すことにしました。そして、決勝戦での激闘から自らの信条にしていることがあります。

「何事も諦めない」

「何かを成し遂げるとまには仲間が必要」

この二つをこれまでの生き方の指針にしてきました。これからも大事にしたいと思っています。

卒業生「私の思い出」募集

県立日立一高卒業生のみなさんの「私の思い出」を募集します。300字程度で、学校生活や恩師、友人との思い出、またその後の人生に与えた影響などを書きください。卒業年度、氏名、年齢、職業、住所、電話番号、あればメールアドレスを明記のうえ、〒100-8051、毎日新聞地方部首都圏版「母校」係（住所不要）へ。メールの場合はshuto@mainichi.co.jp へ。いただいた「思い出」は、紙面や毎日新聞ニュースサイトで紹介することができます。

日立一高硬式野球部は1947年に創部された。OBにプロ野球大洋ホエールズ（現横浜DeNA）の外野手で活躍した江尻亮さんらがいる。

2回戦で広島工高を4-0で降し、3回戦は関東一高（東京）に0-4で敗れた。私立強豪校が台頭する中、2015年夏の茨城大会で30年ぶりに決勝に進出し、霞ヶ浦高に0-2で惜敗したものの古豪復活を印象づけた。

という曲がある。これを最初に応援に採用したのが01年の日立一高とされている。当時3年生だった水野舞さんがBRAHMANの大ファンで友人たちと一緒に曲をアレンジし、球場で初披露したという。5月開幕する全国大会でも耳にすることがあるそうだ。

た。12年には全国で9校の候補校の一つに関東・東京地区から選ばれたが、茨城県勢初の21世紀枠での選出はかなわなかつた。